

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2020.8 No.82



－特集－

1 頁：「GIGAクール構想について」
2・3頁：鼠多門の開通と「百万石」回遊ルート
4・5頁：インタビュー「人」

石川県教育委員会事務局教育次長兼学校指導課長 江尻 祐子氏
石川県金沢城調査研究所長 木越 隆三氏
竹画家 八十山和代氏

「GIGAスクール構想について」

石川県教育委員会事務局教育次長兼学校指導課長 江尻 祐子



6月に学校が再開され、久しぶりに学校に子供たちの声が戻りました。感染症対策を十分に行いながら、教育活動を進めていく新たな生活の始まりです。

ここで、3ヶ月もの長い臨時休校期間を振り返りますと、各学校は、児童生徒の学びをどのように保障するか、家庭学習をどのように

に指示し、学習状況をどのように把握するか、その対応に追われた日々でした。こうした中、学びを保障する方法の一つとして、ICTの活用が脚光を浴び、一定程度の効果があると認識されるようになりました。

国は、これらのことを踏まえ、小・中学校における「1人1台端末」の早期実現や家庭でも繋がる通信環境の整備など「GIGAスクール構想」に係る整備を加速させ、全ての子供たちの学びを保障できる環境を早期に実現させることとしました。

また、小・中・高の新学習指導要領の総則においては、「情報活用能力」が「言語能力」と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、その「情報活用能力」を育むには、情報手段を活用するために必要な環境の整備を図ることが明記されました。

そのため、文部科学省は、現行の「教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画」による地方財政措置の活用と並行して、令和元年度補正予算で2,318億円を計上し、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」の実現を進め、全国の小・中学校、高等学校、特別支援学校等の全ての児童生徒が地域の格差なく、新時代の学びを享受できるよう、外部から学校内全ての教室までの高速かつ大容量な通信ネットワークの整備を進めています。さらに、令和2年度補正予算では、端末整備を前倒ししています。

このような1人1台端末環境では、デジタル教材などの活用により、①個に応じた学習（一人一人の習熟に応じた学習）、②調査活動（インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録）、③思考を深める学習（シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習）、④表現・制作（作品や報告書の制作）などの学習活動が行われます。そのことで、子供たちは、自らの

疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易になり、教員は、一人一人の学習履歴を把握できることから、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能になります。また、双方向型の遠隔授業もできることにより、少人数の学級や病院内などつなげて学習することで、学習環境の差を軽減できるようになります。さらに海外を含めた様々な教育機関等とつなげて学習することで、より学習の質と量を高めることもできます。すなわち、1人1台端末を使うことで、児童生徒は、より主体的に学習に取り組むようになり、教師の支援も個々に最適化されたものになるので、児童生徒の資質・能力が一層確実に成長していけると思われま

す。また、この「GIGAスクール構想」では、家庭におけるICTの活用も期待されています。特に、今回の新型コロナウイルス感染症のような感染症の流行や災害等により登校できない際も、オンラインで児童生徒の健康状態やメンタル面の把握を行うことができたり、授業動画や学習支援ソフトを活用して、時間や場所にとらわれず、個に応じた学習を進めることができたりします。

今年度は、小学校新学習指導要領が全面実施され、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」を育成するための新しい教科書が使用されています。教科書には、文字や絵、写真、図表とともに、二次元コードが印字されているものも多く、子供たちは、1人1台端末によりデジタルデータを活用しながら学ぶことが可能となります。

現在、学校や教育委員会のみならず、各市町の関係者が、ICT環境の整備に取り組んでいるところですが、この「GIGAスクール構想」によるICT環境の整備は、子供たちの創造性を育み、一人一人の能力や適性に応じて、個別最適化された学びがなされることを目指すものであり、あくまでも手段にすぎないことを忘れないようにしなければなりません。そして、緊急時のみならず、日頃から対面の指導とICTを活用した指導を組み合わせ、より効果的な指導を工夫していく必要があると考えます。

これからの時代を生き抜く子供たちの健やかな成長を願い、前進して参りたいと思います。

鼠多門の開通と「百万石」回遊ルート

石川県金沢城調査研究所 木越 隆三



開通した^{ねずみたもん}鼠多門と鼠多門橋

この7月、2015年から進めてきた金沢城鼠多門の復元工事が完成した。これをうけ鼠多門を通り抜け玉泉院丸→二ノ丸→本丸へ、

また二ノ丸から橋爪門→石川門→兼六園→県立美術館・国立工芸館・県立歴史博物館へと回遊することもできるようになった。鼠多門復元で、往時の^{やぐらもん}櫓門の偉容を目前にするだけでなく、門の下の通路も通り抜けられる。

私は二百年前の金沢城下の人々は、鼠多門をこれほど間近に見られなかったことに思いをはせつつ、ある感慨を抱く。現代的な復元という城の見せ方によって、江戸時代人と全く異なる視点から鼠多門という歴史的建造物を間近に鑑賞できるようになった、という感慨である。このチャンスを生かし、城下町の回遊も楽しみたいと思っている。

藩政時代の鼠多門は金沢城二ノ丸御殿の西側に位置し、どちらかといえば目立たない建物であった。その前に架かる鼠多門橋は玉泉院丸と金谷出丸^{かなやでまる}（今は大半が尾山神社地）を繋ぐ橋であり、堀を挟んだ向こう側（海側）に金谷出丸というエリアがあったからである。鼠多門橋を渡って金谷出丸に入ると、直進できず北に折れるか、南に折れるか、ルートは分岐する。江戸後期の金谷出丸には若殿（藩主の継嗣）や隠居の御殿、また側室などの屋敷があり、庭や能舞台・文庫蔵（書庫）などもあった。現在の尾山神社庭園は幕末に新築された隠居御殿に付属したもので、往時の金谷御殿の面影を残す遺構である。

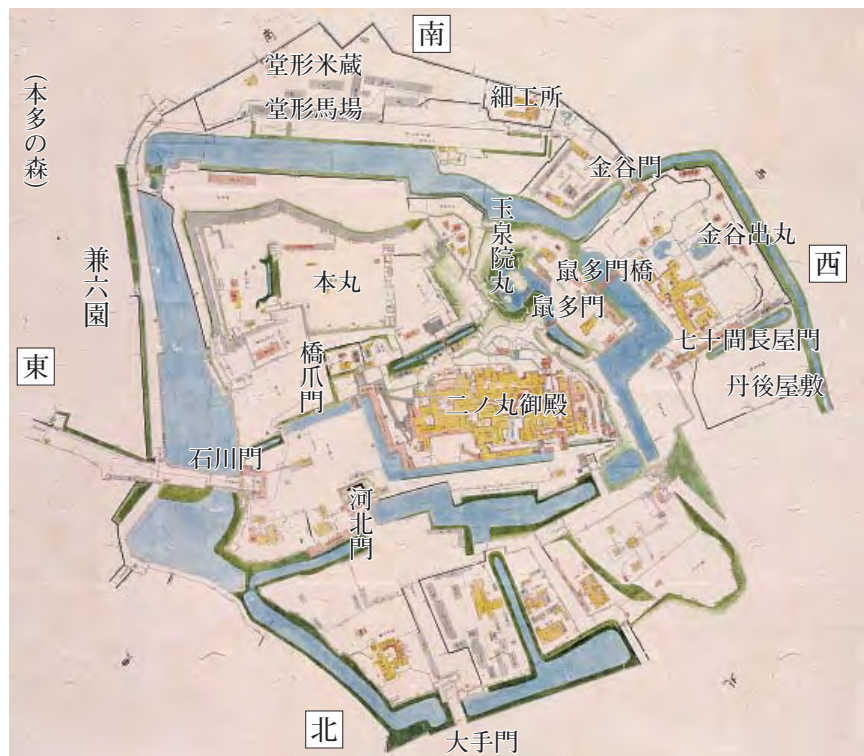
金谷出丸跡地に鎮座する尾山神社は明治4年の廃藩のあと、旧藩主前田家の霊廟として明治6年に新たにできたもので、明治4年まで西側は土塁で囲まれ城下町との通行などできない構造になってい

た。しかし、尾山神社が創立されると、西側に正門ができ、明治金沢のシンボルというべき、三層のカラフルな神門（国重要文化財）が明治8年に建設され、多くの市民が境内に集まり、兼六園と並び、金沢の新しい名所となった。

一方で鼠多門橋は明治10年に朽ち果て撤去され、同17年には鼠多門が焼失した。こうして、明治4年以来、軍用地となった玉泉院丸から上の城地と尾山神社敷地（金谷出丸）の連絡は絶ち切られてしまう。それから140年たち、鼠多門が復元されたことで、両者は再び直結することになったのである。尾山神社神門と兼六園が直結されたことも特筆できる。明治以来、その間に軍用地や国立大学があって遮断されていたからだ。



復元された鼠多門と橋の正面



200年前の金沢城の全域絵図（横山隆昭所蔵「御城中壘分碁絵図」）

城下町と金沢城を横断する回遊ルート

江戸時代、二ノ丸御殿の主^{あまじ}であった藩主は、二ノ丸の松坂門を下り、玉泉院丸庭園→金谷門→兼六園というルートで庭を散策し、また狩に出ることもあった。兼六園に行くときは金谷出丸の南側にある金谷門を通り、細工所・堂形馬場・堂形米蔵などの脇を通り兼六園へと向かった。金谷御殿の主^{あまじ}に会うときは、金谷出丸を北向きに進み、七十間長屋に沿って金谷御殿に入った。七十間長屋門から城下に出ていくことはなく、この門は金谷御殿に住む若殿や隠居が使う出入口であった。七十間長屋門を北側に出ると丹後屋敷というエリアがあるが、ここは今の文教会館の敷地にあたる。江戸初期には前田丹後という金沢城代をつとめたこともある古参の武将の屋敷があった。名称はそれにちなむ。

金谷出丸というエリアが玉泉院丸の西にしっかり存在し、金谷御殿ほか文庫蔵などの建物が並び、その南側には堂形米蔵や細工所の建物もあり、金沢城下の人々が鼠多門の偉容を見ることは難しかった。鉛瓦の屋根が遠くに見えた程度であろうか。

鼠多門の創建時期は不明であるが、今から約四百年前、三代藩主利常の頃とみられる。その頃の金谷出丸は町屋が並ぶ景観であったと伝承するので、鼠多門は金沢城の西側の城門として城下町に対面していたとみられる。その頃は、城下の人々も仰ぎ見たのかもしれない。

鼠多門を経由し城内経由で兼六園や国立工芸館などに至る東側ルートと、尾山神社から西に直進し長町武家屋敷や足軽資料館などをめぐる観光回遊ルートが、今回の復元によって誕生した。城下町を東西に横断するビッグな観光回遊ルート（約2キロ）であり、石川県はこれを「加賀百万石回遊ルート」と名付け喧伝する。これは、かつての城下町を東西に輪切りにして歩けるルートであるが、江戸時代になかった回遊ルートでもあり、明治・大正期の歴史的建造物も同時に楽しめるルートだと、その魅力をうたっている。

藩政時代の城下町は、身分に応じ住地が階層的に区分され、通行ルートは随所で遮断され門番が監視していた。城内も敵を欺くため複雑なルートが設けられ、多くの城門によって迷路のごとき構造を作っていた。こうしたバリアを突き抜け、回遊できるのが強みである。

城下の西端、長土塀公民館付近から歩き始めると、陪臣屋敷の家並みの中にぼつりと今枝家の不動尊が残る。迷路を抜け大野庄用水を探せば長町武家屋敷・野村家庭園・足軽資料館を用水沿いに歩ける。聖霊病院聖堂にも立ち寄る。そして西外惣構のせせらぎ（鞍月用水）を渡り、金沢市文化ホールを左にみて金沢中央観光案内所で一服。ニュージェランドホテル前では小堀遠州の親類筋の藩士宅跡もみつかる。迷路を楽しみつつ、新しく直進できる所は大胆にショートカットして歩けるので、城下町の複雑な構造が実感できる。



大野庄用水と武家屋敷

尾山神社の石段をあがる前に、石段前^{うち}にある内惣構の開渠を一瞥、これも確認すれば、城の外郭を防御した二つの惣構を渡ってきたことを自覚できる。神門を抜け拝殿に敬礼。右に回ると尾山神社庭園である。そして鼠多門橋に誘導されるが、その前に尾山神社東神門も見ておきたい。これは二ノ丸御殿^{からもん}唐門の遺構で、戦後ここに移築されたものである。

ところで近世の金沢城域に少なくとも七つ庭園があった。本丸庭園・東ノ丸庭園・二ノ丸庭園・玉泉院丸庭園・金谷御殿庭園^{はすいけおにわ}・蓮池御庭・竹沢御庭の七つである。このうち現在、庭景を見て歩けるのは四つだけ。御存知の兼六園は江戸時代の蓮池庭・竹沢庭が合体されたもので、県指定名勝の尾山神社庭園は金谷御殿庭園をベースとするものである。これに2015年に復元された玉泉院丸庭園を加えると四つになる。鼠多門の開通で金沢城の七つの庭のうち四つをたやすく巡ることができる。これも回遊の楽しみ、ぜひ歩いてみて下さい。



尾山神社神門



竹画家 八十山 和代さん

ブラジル生まれ。24歳の時、孟宗竹と出会い衝撃をうけて、以来、竹を描き続けている。洋画家としては世界唯一の竹画家。2011年に故郷小松市に「八十山雅子・和代美術館」を開館、多くの人が集う場となっている。現在、鎌倉・建長寺への奉納にむけた襖絵の制作に取り組んでいる。

インタビュアー 文教会館 館長 堀田 葉子

～母の姿をみて～



館長：なぜ、画家を志されたのか教えてください。幼少期から画家を目指されていたのでしょうか。

八十山：母が画家であるということが大きいと思います。物心がついたときから母が絵を描き、家の至る所に母の油絵があり凄いなあと思っていま

した。私もよく新聞広告の裏にクレヨンで絵を描いていました。私が絵を描いていると、母がクレヨンを持つ私の手をとって「ここは、こうやって描くのよ」と教えてくれました。しかし、わたしは意地っ張りなので、「私は、自分で描くの」と言って母の手を払いのけていました。そこで母は、私が母の画室をのぞくと、私にわざと見えるように絵の描き方を示してくれました。私は、居間に戻り、それを真似して一生懸命描きました。それを母は喜んでいました。私は、小さい時から絵が好きだったし、誰にも負けない、大きくなったら母のように画家になりたいなと思っていました。でも、意地っ張りなので、美術部には、入りませんでした。小学校5年生の必修クラブは、サッカー部、中学校の部活動はバレーボール部でした。子どもの頃から活発で、負けず嫌いでした。昔話を同級生から聞くと、男子を羽交い締めにしたりと活発で負けず嫌いであったようです。

館長：八十山先生のその負けず嫌いで活発な気質のルーツは、どこからきていると思いますか。

八十山：私が、ブラジルに生まれということがあると思います。なぜ、ブラジル生まれかという、ブラジルで東別院の布教活動をしていた私の祖父の弟が、寺院の世話役として私の父を選んだことで、私の両親は4年間という約束でブラジルに行くことになりました。両親は昭和33年10月に神戸港を出港、太平洋を横断し、アメリカから南下、2ヶ月間の長い航海を経てブラジルに到着しました。ブラジルに到着した時には、私は母のおなかにいました。ですから、私は、航海中

の様々な国の食事と、3歳半で帰国するまでブラジルのチキン、くだものなどの栄養豊富な食事で育ちました。両親は日本人ですが、多くの国の影響を受け、体も大きく無国籍のような人間になりました。もう一つ、母の影響が大きいと思います。母は、画家としての誇りを大切にし、それが踏みにじられそうな場面では闘っていました。私は、そんな母の姿が格好良く、正義の味方のように思われ、母のような生き方をしたいと思いました。母のように画家になりたいと思いましたが、実家が工務店で、父に高校を出たら働くと言われていたので、二足の草鞋で働きながら絵を描くしかないかなと思っていました。

館長：それでは、いつ画家の道一筋でやっていこうと決心したのですか。

八十山：21歳の時、転機が訪れました。2月の末に交通事故で心肺停止の重体で病院に運ばれ、3日後に医者から、「もうダメだから諦めましょう」と言われたそうです。その時母は「娘は帰ってきます」と言い切ったそうです。次の日、心臓が動き出し、私は目覚めたそうです。退院した次の日4月5日に先祖のお墓の前で「私の命を助けてくれてありがとうございます。目が覚めました。これからは、画家一本でやっていきます。」と報告しました。そして、5月に会社を退職し、今までの蓄えをもとに、実力を試すため京都へいきました。アパートを借りて、絵画を売り歩きました。もちろん親の援助はありません。

～画家への挑戦～

館長：画家として生きていくために京都へ行かれたのですね。当時、苦労されたことをお聞かせください。

八十山：大きな会社・家を訪ねて絵画を売り歩きましたが、有名なものは売れて、有名でないものは売れない時代でしたから「あなたの絵は、将来高くなりますか」「どこの大学出たんや」「日展で賞とりますか」と言われ、10軒訪ねても30軒訪ねても一枚



2016年高台寺襖絵

も売れませんでした。私は、悔しくてたまりませんでした。22歳の時に清水薬品の当時専務の清水さんが、私のもの怖じしない目をほめて、絵を買ってくれました。その時はじめて、自分の絵に値段を付け、プロの自覚を持ちました。そこから、良い人脈・ネットワークが出来、絵が売れるようになりました。

～「私は竹。竹は私。」～



館長：京都で一生涯の題材「竹」と出会うわけですが、描こうと思った理由を教えてください。

八十山：私が24歳になる年のこと、大原野の孟宗竹と出会いました。孟宗竹を見たときに、「これは私だ」と衝撃を受けました。孟宗竹は青くて太

くて天に向かって真っ直ぐ伸びている。地下茎はびっしりとはびこっていてコンクリートを割ってでも出てこようとする勢い。竹の根っこは生命力があって、何事にも負けたくないという私の精神と繋がったのです。竹の幹が自分の外見に重なり、竹の根っこは自分の精神に重なりました。「竹は私、私は竹」竹と人間を重ねてどこまで近づけるか。描くことが出来るか。生涯のテーマが生まれました。竹の素材で人間を表したいと思いました。

館長：竹の凜としている姿が、先生の凜としている姿と重なりますね。31歳から48歳になられるまでに6回の海外美術館個展を成功させ、日本人初個展という功績を残されていますが、その成功の要因を教えてください。

八十山：なぜ海外展をやったかという、京都では、27歳で絵が売れ始め、生計を立てることができるようになり、30歳から50歳までの20年間でどれだけ個展ができるか試したいと思ったからです。まず個展の場所として選んだのは、ニューヨークです。30歳単身ニューヨークに乗り込み、一生感謝すべき紅花のロッキー青木さんとの偶然の出会いがあり、また、京都での経験、生まれもった社会的・外向的な性格、「女は度胸・男は愛嬌」をモットーに行動をすることで海外展を成功出来たと思っています。いかに社交が大切かを学びました。ニューヨーク個展では画商の役割を自ら担うことにより、海外個展を開くためのタイムスケジュールと段取りを知ることができました。多くの人脈を作ること、美術館・個展の場所を決めること、飛

行機会社との交渉、かけひき、マスメディアへの対応など、これらの進め方が私の頭に入っています。人任せではなく、私自身が動いて事を進めることの大切さを思い知りました。

館長：画家と画商の役割をこなし、目標をしっかりと立てて、行動されたのです。全て自分でプロデュースし、大成功をおさめることができた八十山先生のその行動力が凄いところですね。

～どこにいても、竹画家～

館長：最後に今後の抱負を教えてください。

八十山：私が36歳の時に母が亡くなりました。母は私に生き様を見せてくれました。一回しかない人生、本人がどう生きるかが一番大切だと。信念を貫き、自分の力でどこまでやれるかが大事だと教えてくれました。生前母が、「二人の美術館を造りたいね」といっていましたので、51歳の時に2人の美術館を建てました。当初美術館は京都嵯峨野に作ろうと思っていたのですが、私は世界の竹画家、どこにいても竹画家だという思いから、母との思い出の地、実家である石川県小松市に「八十山雅子・和代美術館」を建てたのです。この美術館にたくさんの方が集まり、元気をもらえるとってくれる人がいるかぎり、私は、元気の源として、悔しいときほどニコニコし陽気でいようと思っています。私は、一回死んでいるので、怖いものがないのかもしれませんがきちんと段階を踏まえ行動しています。生きているということはいろんな事ができる、素晴らしいぞと思っています。今日の顔は、生きてきた集大成の顔だといつも思っているので、集まってくる人に私の生き様をみせることで「失敗を恐れず、人間は正直でありのままがいい、それをわかってくれる人がいる。」ことを伝えたいと思っています。竹画家は世界で一人。竹が大好きな私は、これからも竹を描くことを続けなければならないと思っています。



事業のお問い合わせ・お申し込みは文教会館まで TEL.076-262-7311

令和2年度 文教アートウエイブ

文教アートウエイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年も感動のひとつときをお届けします。



今後の公演予定



高橋英子バレエスタジオ ◆高橋英子バレエスタジオ 第20回発表会	令和2年8月30日(日) ◇入場：無料	開演14:00
石川県立桜丘高等学校吹奏楽部 ◆金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマスコンサート	令和2年12月20日(日) ◇入場：無料	開演17:30
石川県立金沢伏見高等学校 ◆石川県立金沢伏見高等学校吹奏楽部 第7回定期演奏会	令和3年3月21日(日) ◇入場：無料	開演14:00

令和3年度の文教アートウエイブ公演募集 小・中学校の成果発表会にもご利用下さい。

文教アートウエイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に**利用料と冷暖房費を無料**でホールをお貸します。(照明設備費・舞台技術費等有料)

利用期間：令和3年度、9月・10月・11月・12月以外の月(リハーサルを含み3日間を上限)

申込期間・申込方法：令和2年5月1日(金)～9月30日(水)

「文教アートウエイブ申込書」に必要事項を記入の上、文教会館事業課までFAXまたは郵送ください。

※申込は当館へ事前にお問い合わせの上、ご提出ください。詳しくは文教会館HPで確認いただくか、お電話までお問い合わせください。TEL (076) 262-7311

令和2年度 教育資料収集整理事業

当財団では、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。教育文献・教育用具等、収集数は5万点を数えます。これらの教育資料は当館の資料展示室や物具室で閲覧することができます(要予約)。蔵書リストは当館ホームページよりダウンロードできます。



資料展示室



物具室

* 高等学校の刊行物の閲覧が出来ます *

中学校での社会見学や金沢自主プラン計画に、文教会館所蔵の高等学校の刊行物の閲覧を取り入れてみてはいかがでしょうか。昼食会場として会議室をご利用いただき、高校進学の手引きに役立てて下さい。

今後の予定

石川県文教会館教育資料展 県庁19階にて

高等学校・特別支援学校の令和元年度の刊行物(学校新聞・生徒会誌)を展示します。

<展示期間>

8月25日(火)～9月3日(木)

教育資料収集整理事業「推進委員会」と「資料調査委員会」の開催

当事業の充実を図るため8教育団体*のご協力を得て、開催しています。委員の皆さまからは、教育資料の収集整理・活用に関するご意見や小中・高等学校等の資料の情報等を頂戴しています。

*県小中学校長会・県高等学校長協会・県退職校長会・県高等学校退職校長会・県PTA連合会・県高等学校PTA連合会・県教育振興会・県特別支援学校長会

教育ウイーク関連行事

「教育史セミナー」

日時 11/6(金) 14:30～
演題 前田利常の隠居政治
一将軍家光 親政と天徳院の
子供たち一
講師 木越 隆三氏(金沢城調査研究所長)

入場無料

第208回 教育資料ロビー展
「探究型学習について」
期間 11/1(日)～11/7(土)
これからの時代に必要な力とは?

事業紹介

令和2年度 文教国際理解講座のご案内 ～ネイティブスピーカーによる異文化理解講座です～

アメリカ出身のネイティブスピーカーの指導で、言葉や文化を学べます。
定員に空きのある講座には途中入会ができます。文教会館までお気軽にお問い合わせください。



実施期間：2020年6月～2021年3月
対象：一般 教職員 高校生
定員：1講座 20名
受講料：年額36,000円(年35回)(教材は実費負担)
※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。

初級：あいさつ程度の会話ができる (英検3級程度)
準中級：英語で簡単なコミュニケーションができる (英検準2級程度)
中級：英語でコミュニケーションができる (英検2級程度)
上級：日本語同様に会話ができる (英検準1級程度)

	10:00～11:40	18:30～20:10
火曜日	米英米文化 中級	英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級	英米文化 準中級
木曜日	英米文化 初級	英米文化 初級
	英米文化 準中級	英米文化 中級



☆ホームページから募集要項等をご覧ください。

文教国際理解講座

Q 検索

第33回 いしかわ県民陶芸展

— アマチュア陶芸作品募集 —

県内のアマチュア陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。

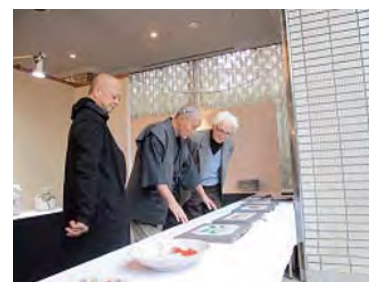
石川県にお住まいの方ならどなたでも応募できます。初心者の方も大歓迎です。小さなお子様からご高齢の皆様まで、ぜひ、ふるって作品をお寄せください。お寄せいただいたすべての作品を展示します。どうぞ、発表の場としてご活用ください。

■作品応募について

- 作品規定
- ・未発表の自作品 (1人1作品のみ)
 - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 - ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時 令和3年1月10日(日) 10:00～15:00
- 受付場所 石川県文教会館1階ロビー
- 出品料 一般:2,000円、青少年(20歳未満):無料
- 審査員 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門(五十音順・敬称略)



第32回 いしかわ県民陶芸大賞
『赤獅子 黒獅子』



審査会の様子

■作品展示について

- 展示期間 令和3年1月16日(土)～24日(日)
9:00～16:30(最終日は15:00まで)
- 展示会場 石川県文教会館
- 表彰式 令和3年1月17日(日) 13:30～15:10 石川県文教会館
◇賞状授与:大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
◇審査員による講評・作品解説
- その他 展示期間中、入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施します。
投票された方には抽選で記念品を贈呈します(若干名)。

入場無料



展示会場の様子

主催：公益財団法人石川県文教会館

後援：石川県、金沢市、石川県教育委員会、北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、FM-N1

施設紹介

文教会館の施設ご利用について — 教育文化の発信に 研修・会議・交流の場 —

新型コロナウイルス感染予防策として、来館者にマスクの着用を求めるほか、手指消毒用アルコールの設置、非接触型体温計の貸出し、ドアノブ・手すり等こまめに消毒液による清掃を実施しています。

研修や会議、交流の場としてご利用ください。一般の方もご利用いただけます。お気軽にお問い合わせください。

各種演奏、ご公演などに適した音響・照明完備のホールです。(590席)



土日曜日にホールを1日(9時~17時)利用して、照明代冷暖房費用を含めて10万円以下でご利用できます。
※楽屋及びリハーサル室のご利用は無料です。

少人数の打合せから研修・講演会まで、用途やご利用人数に合わせて、様々な大きさ・タイプの会議室をご用意しています。



様々な用途にお使いいただける和室のほか、茶室や応接室もあります。

★新設 和風会議室★

中庭の見える風通しの良い会議室です。新型コロナウイルス感染症予防対策もバッチリです。(スクール形式 約30名 使用可)

カーペット敷の大和室が新たに会議室に仲間入り(旧409会議室と旧410会議室)。

和風会議室(408・409・410)を9時~12時まで利用して、8,490円です。(全ての会議室は冷暖房費がかかりません。)



喫茶コーナー「エース」よりお知らせ

~ サマーセール 開催中 ~

5人以上で会議室をご利用の際は、5杯以上のご注文で、ホットコーヒー・アイスコーヒーを、それぞれ1杯あたり200円(税込み)で提供させていただきます。(土曜、日曜、祝日を除く)。スタッフ一同ご注文をお待ちしております。



ビーフカレーセット
食後のコーヒー付き
650円



喫茶コーナー「エース」ではコーヒー、紅茶など各種お飲み物や、トースト、ピラフ、パスタ、カレーライスなど軽食をご用意しております。

トースト 210円
カレー 390円
ピラフ 360円
パスタ 360円

当館ホームページで詳細をご覧ください。街なかのオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。

